

## 琵琶湖疏水と南禅寺水路閣

JJ1SXA/池

京都へは何度か行っているが、南禅寺の水路閣へは行き損なっている、京都観光名所の一つだが、なぜ行き損なったかは分からない、機会があったら是非行ってみたいものだ、南禅寺境内を通る水路閣は、花崗岩造り、アーチ型橋脚の風格或る構造物で、全長 93.2 メートル、幅 4 メートル、高さ 9 メートルという物のようだが、琵琶湖疏水の一部で、京都の川はみんな南に向かって流れるのに、この疎水は北に向かって流れているようだ、9 メートルの上を流れるのだ、疎水では無いが、京都の鴨川と宇治川を結ぶ高瀬川は歌の文句でも知られているが、日本で最初の運河だ。

そもそも、疎水とは、他の水源から水を引く目的で造られた水路のことで、この琵琶湖疏水は、滋賀県大津市三保ヶ崎で琵琶湖から取水し、京都へ送っているのだ、第 1 疎水(1890 年に完成)と第 2 疎水(1912 年に完成)を総称して琵琶湖疏水と称される。

水力発電は通水の翌年に運転が開始され、営業用として日本初のものであり、その電力は日本初の電車(京都電気鉄道、のち買収されて京都市電)を走らせるために利用され、さらに工業用動力としても使われて京都の近代化に貢献したようだ。

全国には、疎水が数多く存在し、疎水 100 選に選ばれているが、「安積疎水…アサカソスイ」(猪苗代湖より取水し、福島県郡山市とその周辺地域の安積原野に農業用水・工業用水・飲用水を供給している疎水)と、「那須疎水…ナスソスイ」(那珂川の上流から取水し、栃木県北部の那須野が原に飲料・農業用水を供給する用水路)と共に、日本三大疎水とよばれている。

疎水では無く、次は上水の話だ、疎水は灌漑・給水・発電用ということだが、上水は主として飲料用というのが、一般的な区分のようだ、私にとっては一番身近な「玉川上水」、この上水の側道、遊歩道は、私の健康のためのウォーキング道路だ、通常は、自宅を出て遊歩道へ向かい、遊歩道を西に金比羅橋まで行ったら、そこでUターンして東上、玉川上水駅まで行って帰宅すると約 6 キロ弱、桜の季節には、金比羅橋から更に西の見影橋に向かい、桜の花見を楽しむ、事ほど左様に玉川上水は身近な存在だが、玉川上水は、かつて江戸市中へ飲料水を供給していた上水であり、江戸の六上水の一つだ、多摩の羽村から四谷までの全長 43km が 1653 年に築かれたが、一部区間は、現在でも東京都水道局の現役の水道施設として活用されている。

羽村取水堰で多摩川から取水し、武蔵野台地を東流し、四谷大木戸に付設された「水番所」を経て市中へと分配されていた、水番所以下は木樋や石樋を用いた地下水道であったが、羽村から四谷大木戸まではすべて露天掘りだ、六上水の内四上水は早いに閉鎖されたが、残るもう一つの神田上水は井之頭池を発する上水だ。

水に恵まれた日本に感謝しつつ、上水遊歩道のウォーキングを続けようと思う。